

西大芦漁協管内で冷水病回復後のアユの生息数を調査しました！

2023. 9. 6 水産試験場

西大芦漁協管内では、近年、冷水病による被害が大きいことが課題となっていました。そこで、今シーズンは冷水病に強いことが期待される七色系種苗の放流を増やしました(R4年：0% ⇒ R5年：47%)。

その結果、解禁日から約1ヶ月が経過した7月16日頃から冷水病の発生が見られましたが、ほとんど死魚が見られることなく8月には回復し、釣れ具合も良好でした。

8月30日に潜水目視によって調査^(※1)したところ、アユの生息数は約3万尾と推定され、解禁前の生息数に対する残存率は34%と過去9年間で最も高い値となりました。

流行している冷水病に強い種苗を放流することは、冷水病被害を軽減するために有効と考えられます。

※1 調査方法の詳細はこちら (<https://agriknowledge.affrc.go.jp/RN/2010910859>)

表1 西大芦漁協での放流アユの生息数

調査年	アユの生息数(尾)		残存率 (B/A)
	解禁前 (A)	冷水病 回復後 (B)	
2015	150,000	25,500	17%
2016	118,000	34,000	29%
2017	124,700	29,300	23%
2018	143,300	29,200	20%
2019	81,000	19,100	24%
2020	100,600	16,000	16%
2021	74,300	16,700	22%
2022	70,200	14,800	21%
2023	87,600	30,200	34%

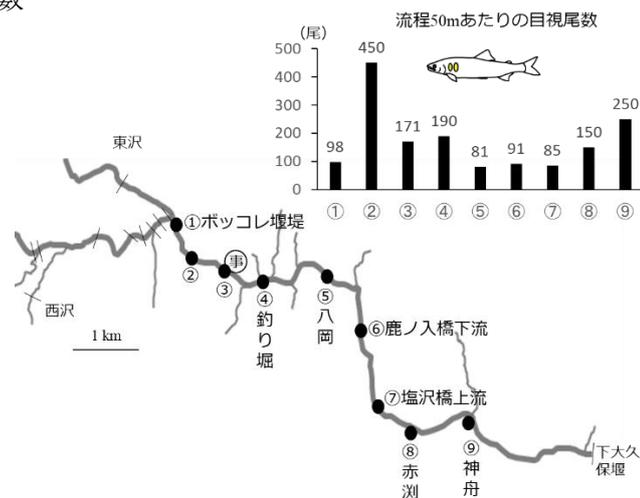


図1 調査地点とアユ目視尾数(2023.8.30)